

世界のソーシャル・ビジネス

欧州編
フランス

ホームレスが運営する おしゃれなブティック

2013年のル・サロン・エマウスでのファッションショー
©Alex Bonnemaion



エマウスは、1954年にピエール神父によって創立された、ホームレスや前科者を支援するフランス最大のNGOだ。家具や衣類などの不要用品を回収し、安価で販売したり、スタッフとして雇用したりすることで、社会復帰の場を提供する。

エマウスが運営するパリのブティックは、レトロな家具やヴィンテージなどを破格の値段で買える場として、フランスの現代社会のなかに深く根付いている。

エマウスでは、前科者や刑務作業に服する人々、不法滞在者から路頭に迷う人すべてを、宗教や国籍の違いは問わず、無条件・無期限に迎え入

れ、宿泊する場を提供している。国からいかなる補助金も受け取らないため、政治に翻弄されることもない。

コミュニティに参加する人々全員が廃品回収、リサイクルに参加し、自給自足の共同生活を営んでいる。昨年の売上高は4億6900万円(約660億円)にも上る。

毎年開催される大エキスポ「ル・サロン・エマウス」では、リサイクルモードのファッションショーも行われ、2009年には、クリスチャン・ラクロワとステラ・カデンテも参加、リサイクル衣類を使ったモードを発表した。

衣類リサイクル会社に発展

ことのはじまりは1949年。刑期を終えて出獄したものの、生活の見通しが立たず自殺未遂をしたジュールジュ・ルゲイを見舞った故ピエール神父が言った。

「僕は君に何もしてあげられない。でも、君は僕を助けることができるはずだ。自殺はやめて、僕がこれから困って

いる人々を援助するのを手伝ってくれないか」

この一言が、エマウス・コミュニティの第一歩となった。

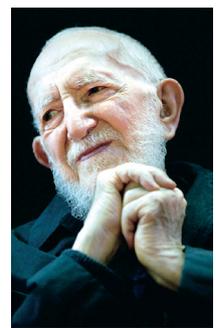
現在、フランス国内に116件あるエマウス・コミュニティを支えるのは、47の社会復帰援助組織だ。なかでも最大の支援組織が衣類リサイクル会社ル・ルレである。

ル・ルレは、もともとエマウスの幹部が中心となって1984年に立ち上げた会社だ。当時、エマウスのコミュニティに身を寄せる人々を再就職させることができず、就職先として設立した。そのため、従業員はホームレスや職業資格を持たない人が中心だ。

ル・ルレは、この30年間で業界のリーダー格としての地位を確保し、現在、市場の55%、年に約10万トに上る衣類のリサイクルルートすべてを担っている。

フランス中に設置された約1万6千のコンテナから回収された衣類のうち、再使用できる49%を輸出し、6%は国内の自社リサイクルショップ

で販売。10%は清掃用布に加工され、25%は自社で開発した建築用断熱材・断音材「メチス」に加工される。



ピエール神父 ©Sebastien Godetroy

1988年から働いているマリー・エレヌは言う。

「メチスは私たち全員の誇り。メチスを開発、生産するようになってから、私たちはただの屑拾いではなくなった」

ル・ルレは2009年、シュワブ財団とポストン・コンサルティンング・グループからソーシャル・ビジネス賞を受けた。

現在、2200人を雇用し(60%が正規雇用契約)、労働者はすべて、5年後には株主になるワーカーズコレクティブでもある。5年来、年に12%の成長率を維持し続けており、エマウス誕生60周年を迎えた今年、4件の新しい回収センターを建設する予定だ。

(パリ・プラド・夏樹)